



Title	「自動調の可能形」の誤用の要因に関する考察：初級日本語教科書の分析から
Author(s)	セーリム, パニー
Citation	日本語・日本文化研究. 2013, 23, p. 118-128
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/26927
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

パンニー・セーリム

タイ語を母語とする日本語学習者には、「本がカバンに入れない」に見られるように、「自動詞の可能形」を用いた誤用が多くみられる。誤用の原因は、学習者の母語からの干渉や、目標言語の使い方を十分に心得ていないことなど、さまざまな要因が考えられるが、セリム（2012）では、「自動詞（無意志動詞）を可能形に活用させると、非文法的になる」という知識を持っていないことがその要因の一つであることが、「自動詞の可能形」の誤用を犯した、タイ語を母語とする日本語学習者へのインタビューから明らかになった。なぜ学習者がこのような知識を持っていないのかに関しては、学習者が日本語を学習する際に使用した日本語の教科書や教材もその一因ではないかと考えられる。そこで本稿では、日本語の教科書における「自動詞の可能形」の誤用に関連する項目の指導方法の調査及び分析を行う。

本節では、日本語の可能形に関する先行研究、および日本語教育における可能表現の扱いに関する先行研究を概観する。

一般に可能形を用いる可能文は、可能の表現の中でも最も多く用いられるが、井上（1976）、寺村（1982）などで指摘されているように、可能形にできる動詞は意志的な動作を表すものでなければならない。そのため、次のように意志性を持たない動詞、即ち「～しよう」「～しろ」という形のとれないものは、可能形をとることができない。

- (1) a. 雨が降る。 b. *雨が降れる。
- (2) a. 窓が閉まらない。 b. *窓が閉まれない。

ただし、高見（2004）では「主語との関係や文の持つ意味によっては、一つの動詞が意志・無意志の二通りに用いられる場合もある」（p.87）とされており、長友（1997a）にも、動作主が文中に明示されているかどうかに関わらず、動作主の意志によってその動作が可能であることを表す場合には可能形がとれるという指摘がある。従って、可能形の使用の可否を判断するには、注意しなければならない。

- (3) a. 傘がバッグに入る。 b. *傘がバッグに入れる。(無意志動詞)
(4) a. 大学に入る。 b. 大学に入れる。(意志動詞)

(高見 2004 : 87)

(3)の主体(傘)は意志を持たない非情物であるため、無意志動詞「はいる」を可能形の「はいれる」にすると、非文法になる。しかし(4)の「はいる」は、明示されていない動作主(私)が存在し、動作主が意志を持って「はいる」という行為を行う意志動詞として用いられているため、「はいれる」という可能形が使えるというわけである。

よって、文法的な観点からみると、日本語の可能表現は主体の意志性や有情性に深く関わっていると言える。

2.2 日本語教育における可能表現の扱い

日本語の可能表現における可能形及び可能の意味を表す自動詞の指導方法については、日本語教育において様々な指摘がある。

可能形の導入に関しては、長友(1997b)で、日本語学習者が可能表現を学ぶ際には日本語の可能表現の特徴を把握する必要があるが、初級の段階では、教師は学習者に可能形を定着させることに重点をおいて、文型練習のみをさせることになりがちであり、その結果、中級・上級になっても、可能形をとる動詞ととらない動詞に気付かずに、誤用してしまう学習者も少なくないと指摘されている。さらに、封(2005)は、可能文において主語が「有情物」か「非情物」かという要素を考えなければならないものの、従来の日本語教育では往々にして指導がされてきていないと指摘している。

また、張(1998)は、可能の意味を表す自動詞に関しては、従来の日本語文法においては、自動詞表現には可能の意味を表す用法があるというような記述はなされていないために、自動詞表現と可能表現はまったく違う意味を表す表現であるという印象が学習者に与えられていると指摘している。

以上、これまでの先行研究を踏まえると、日本語教育においても、日本語の可能表現の特徴的な性質の説明が不十分であることが指摘できる。

3. 研究方法

本節では、調査の目的および調査対象や調査内容について述べる。

3.1 調査の目的

本調査では、タイ語を母語とする日本語学習者の「自動詞の可能形」の誤用に関連する「可能表現¹⁾」「自動詞」の項目が日本語の教科書でどのように扱われているのか調査を行い、指導上の問題点を明らかにする。

3.2 調査対象とする日本語教科書

タイ語を母語とする日本語学習者が、よく使用している教科書の分析を行うために、以下の三点を考慮した上で、8冊の日本語の教科書を調査対象とした。

- ① セーリム（2012）の調査対象者が初級の日本語を学習した際に使用した教科書
- ② 国際交流基金の調査²において、タイの中等・高等教育機関と日本語学校でよく使用されている教材として挙げられている教科書
- ③ タイの日本語教育における教材に関する研究³の情報

なお、調査対象の教科書に教師用指導書がある場合には、それも調査の対象とした。調査対象とした教科書は以下の通りである。

表1 本研究で調査対象とする教科書の一覧

	教科書 ⁴	初版年 ⁵	著者・発行所	対象
1	日本語初歩	1985	国際交流基金	一般
	日本語初歩 日本語文法解説 タイ語版	1995	ステープ・ノームサワット	
2	初級日本語	1994	東京外国語大学	留学生
	初級日本語れんしゅう	1994	東京外国語大学	
	初級日本語文法解説 英語版	2001	東京外国語大学	
3	新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ	1990	海外技術者研修協会	技術研修生
	新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ 分冊 タイ語訳	1990	海外技術者研修協会	
	新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ 文法解説書 タイ語版	1992	海外技術者研修協会	
	新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ 教師用指導書	1992	海外技術者研修協会	
	新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱのくわしい教案と教授法	1994	有馬 俊子	
4	みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ 本冊	1998	スリーエーネットワーク	一般
	みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ 文法解説. タイ語版	2000	スリーエーネットワーク	
	みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ 教え方の手引き	2000	スリーエーネットワーク	
5	初級日本語 げんきⅠ・Ⅱ	1999	ジャパンタイムズ	一般
	初級日本語 げんきⅠ・Ⅱ 教師用指導書	2000	ジャパンタイムズ	
6	日本語よろしく 1・6	1999	泰日経済技術振興協会	一般
7	ホップ・ステップ・ジャンプ (一・二) ⁶	2002	チュラーロンコーン大学	大学生 (日本語専攻)
8	日本語あきこと友だち 1・6	2004	国際交流基金	高校生

3.3 調査内容

日本語学習者の「自動詞の可能形」に関連のある以下の項目の調査を行う。

- ①「可能表現」「自動詞・他動詞」が導入される順序と例文
- ②「可能表現」の使用条件、「自動詞」の使用条件に関する説明や注意事項の内容

まず、一点目であるが、「自動詞の可能形」の誤用は、「可能表現」と「自動詞」と深く関わっていることが考えられるため、各教科書において、「可能表現」と「自動詞」の導入時期と導入順序の関係、例文を調査することとした。次に二点目として、「可能形」と「自動詞」が導入される課における説明や注意事項の内容、また「自動詞の可能形」に関する説明の有無を調査した。

4. 調査の結果と考察

本節では、調査結果を分析し、各教科書における「可能表現」「自動詞・他動詞」の導入順序・例文、可能表現の使用条件の解説に関して考察する。

4.1 各教科書での「可能表現」「自動詞・他動詞」の導入順序・例文

まず、各教科書において、「可能表現」と「自動詞・他動詞」の項目がどのような順序で導入されているのか調査を行った。調査結果をまとめたものが表2である。

「可能表現」と「自動詞・他動詞」の導入順序は、「①可能表現→②自動詞・他動詞」が4冊、「①自動詞・他動詞→②可能表現」が1冊（『日本語初歩』）、「①～ことができる→②自動詞・他動詞→③可能形」が1冊（『日本語よろしく』）であった⁷。即ち、多くの教科書において「可能表現」が導入された後で、「自動詞・他動詞」が導入されるということである。よって、多くの「可能表現」が導入される課では、日本語には自動詞（無意志動詞）が存在する、また「動詞に可能形がつくか否かは主語の有情性と動詞の意志性による」という規則の説明がないことが予想される。

表2 各教科書での「可能表現」「自動詞・他動詞」の導入の順序と例文

	教科書	～ことができる	可能形	自動詞・他動詞
1	日本語初歩	23 課		18 課
		・私は泳ぐことができます。(p.188) ・私は自転車に <u>乗ることができます</u> 。(p.188)	・私は泳げます。(p.188) ・ここに車が止められます。(p.188) ・おふろに <u>入れます</u> 。(p.190) ・たばこは <u>すえます</u> が、おさは <u>飲めません</u> 。(p.194)	・まどが <u>しる</u> 。／まどが <u>しめる</u> 。(p.145) ・まどが <u>しまっています</u> 。／まどが <u>しまてあります</u> 。(p.146)
2	初級日本語	16 課		17 課
		・アリさんはさしみを <u>食</u> べることができますか。(p.135) ・りゅう学生はこのりょうに <u>入</u> ることができます。(p.135)	・アリさんはさしみが <u>食</u> べられますか。(p.135) ・りゅう学生はこのりょうに <u>入</u> れます。(p.135) ・このにもつは軽いから、一人で <u>運</u> べます。(p.138) ・この作文は短いから、十分ぐらいで <u>な</u> おせるでしょう。(p.138)	・マナ:食器のはこはトランクに <u>入</u> れました。このいすも <u>入</u> れますか。 小林:それは大きいから、 <u>入</u> らないでしょう。(p.143) ・この戸は古いから、 <u>開</u> きません。(れんしゅう p.202) ・男の人がタクシーを <u>止</u> めました。／タクシーが <u>止</u> まりました。(p.146)
3	新日本語の基礎	18 課	27 課	29 課
		・リーさんは漢字を <u>読</u> むことができます。(p.144)	・わたしは日本語が少し <u>話</u> せます。(p.12) ・この荷物は重いですから、一人で <u>持</u> てません。(p.15) ・わたしはひらがなは <u>書</u> けますが、かたかなは <u>書</u> けません。(p.12)	・このいすはこわれていますから、 <u>使</u> えません。(p.34) ・かぎが <u>掛</u> かっていますから、中に入れません。(p.35) ・道が <u>込</u> んでいますから、車がなかなか <u>動</u> きません。(p.35)
4	みんなの日本語	18 課	27 課	29 課
		・ミラーさんは漢字を <u>読</u> むことができます。(p.146) ・ここで切符を <u>か</u> うことができます。(p.148)	・わたしは日本語が少し <u>話</u> せます。(p.10) ・約束がありますから、きょうは <u>飲</u> みに <u>行</u> けません。(p.13) ・ここに車が止められます。(p.13) ・ひらがなは <u>か</u> けますが、かんじは <u>か</u> けません。(p.12)	・窓が <u>閉</u> まっています。(p.26) ・ドアが <u>あ</u> いています。(p.28) ・くるまが <u>と</u> まっています。(p.28) ・このふくろは <u>や</u> ぶれています。(p.28)
5	初級日本語 げんき		13 課	18 課
			・私は日本語が <u>話</u> せます。(p.10) ・雨が降ったので、海に <u>行</u> けませんでした。(p.11)	・たけしさんが電気を <u>つ</u> けました。／電気が <u>つ</u> きました。(p.116) ・ロバートさんは窓を <u>開</u> けています。／ドアが <u>開</u> いています。(p.117)
6	日本語よろしく	4 巻 2 課	5 巻 4 課	4 巻 6 課
		・ラリターさんは英語が <u>で</u> きます。(p.28) ・アリヤーさんはテストを <u>す</u> ることができます。(p.29)	・ラリターさんはかんじが <u>読</u> めます。(p.59) ・このはこは重いですから、一人で <u>も</u> てません。(p.61) ・すしは <u>食</u> べられますが、さしみは <u>食</u> べられません。(p.61)	・ドアを <u>あ</u> ける。→ ドアが <u>あ</u> けてあります。(p.100) ・ドアが <u>あ</u> く。→ ドアが <u>あ</u> いています。(p.100) ・お金を <u>入</u> れる。→ お金が <u>入</u> れてあります。(p.100) ・お金が <u>入</u> る。→ お金が <u>入</u> っています。(p.100)
7	ホップ・ステップ・ ジャンプ			1 巻 4 課
				・田中さんが電気を <u>消</u> しました。／電気が <u>消</u> えました。(p.156) ・村田さんは窓を <u>開</u> けています。／窓が <u>開</u> いています。(p.158) ・私も髪を <u>伸</u> ばすわ。／髪が <u>伸</u> びてきたわ。美容院に行かなきゃ。(p.158)
8	あきこと友だち	10 課	18 課	
		・上の兄はピアノを <u>ひ</u> くことができます。(p.150)	・からい物が <u>食</u> べられます。(p.33)	

次に、「可能表現」「自動詞・他動詞」が導入される課で、示されている例文に注目してみたい。「可能表現」が導入される課では、以下のような例文が示されている。

- (5) このにもつは軽いから、一人で運べます。(『初級日本語』16課 p.138)
- (6) この荷物は重いですから、一人で持てません。(『新日本語の基礎』27課 p.15)
- (7) このはこは重いですから、一人でもてません。(『日本語よろしく 5』4課 p.61)

上記のような例文は、例えば(5)なら「私は一人で運べます」のように、ヒトを主語としそのヒトの能力を語る文であるが、主語が省略され、モノが主題として示される形を取っている。このような例文を用いると、学習者はモノが主語でも可能形が使えるという規則を自分の中で作ってしまう可能性があり、このような規則により、「自動詞の可能形」の誤用が起きてしまうことが考えられる。

同様の例文は、「自動詞」が導入される課でも挙げられている。

- (8) このいすはこわれていますから、使えません。(『新日本語の基礎』29課 p.34)

ここでは、指導項目は自動詞「こわれています」であるため、「使えません」については、特に説明などがなされない可能性がある。

また、以下のように、可能形の例文として、対比の文脈において対象物が「は」で表示された例文も示されている。

- (9) たばこはすえますが、おさけは飲めません。(『日本語初歩』23課 p.194)
- (10) ひらがなはかけますが、かんじはかけません。(『みんなの日本語』27課 p.12)
- (11) すしは食べられますが、さしみは食べられません。(『日本語よろしく 5』4課 p.61)

上記の例では、(9)は「私はたばこが吸えます」のように、ヒトの能力を語る文であるが、二つの項目を取り上げて、対比で示すことによって、対象物が主題として文頭に置かれ、有情物が文に示されていないため、学習者は非情物が主語でも、文末に可能形が使用できると理解してしまう危険性を孕んでいる。

以上のように、「可能表現」と「自動詞・他動詞」が導入される課では、様々なタイプの例文が示されていることが明らかになった。このような例文によって、学習者が「ヒト主語でもモノ主語でも可能形は用いることができる」という間違った規則を作ってしまうことが、「自動詞の可能形」の誤用の一因なのではないかと考えられる。

4.2 可能形および自動詞の使用条件の解説

次に、「可能表現」と「自動詞・他動詞」が導入される課における説明や注意事項について

て、「自動詞の可能形」に関する記述があるのか、特に「主語・意志性」に関する説明の有無を中心に調査を行った。

まず、「可能表現」が導入される課では（表3）、動詞を可能形にする時の活用の規則と可能形を用いた場合の助詞の変化（を→が）に関する説明が、全ての教科書に見られた⁸。しかし、可能表現における主体の有情性や動詞の意志性など、使用条件に関する説明は、どの教科書にも見られなかった。ただし、使用の制限として、可能形にすることができない動詞に関する説明は5冊の教科書で見られた。この説明において、例外として取り上げられている動詞は、主に「見える」、「聞こえる」、「わかる」であり、これらが可能形にできない理由として、「可能動詞と同じように状態を表すから」、「可能・能力の意味を表すから」、「意志性がないから」と書かれていた。このような説明では、学習者は可能形にできないのはこの3つの動詞だけだと思い込む可能性があること、この説明では他の動詞に適用できないことが、「自動詞の可能形」の誤用の一因となっていることが考えられる。

表3 各教科書での「可能表現」が導入される課における可能形に関する説明

	教科書	活用	助詞	使用条件	可能形にできない動詞
1	日本語初歩			×	
	日本語初歩 文法解説 タイ語版	○	○	△	・「 <u>聞こえる</u> 」、「 <u>見える</u> 」は可能動詞と同じように状態を表すので、助詞「が」を使う。(23課 p.167)
2	初級日本語			×	
	初級日本語れんしゅう			×	
	初級日本語文法解説 英語版	○	○	×	
3	新日本語の基礎	○		×	
	新日本語の基礎 分冊タイ語訳			×	
	新日本語の基礎 文法解説書 タイ語版	○	○	△	・「 <u>わかる</u> 」は可能の意味がある状態を表す動詞なので、「 <u>わかるる</u> 」にできない。(27課 p.4)
	新日本語の基礎 教師用指導書	○	○	△	・「 <u>見えます</u> 」、「 <u>聞こえます</u> 」は人が生まれつき持っている能力の意も表すが、ここでは「外から自然に見える、聞こえてくる」という意味を教える。 (27課 p.18) ・「 <u>見えます</u> 」と「 <u>見られます</u> 」、「 <u>聞こえます</u> 」と「 <u>聞けます</u> 」の違いは、この段階では難しいので敢えて教えずにいてもよい。(27課 p.19)
	新日本語の基礎の くわしい教案と教授法	○	○	△	・「 <u>見えます</u> 」、「 <u>聞こえます</u> 」は知覚動詞である。 ・「 <u>見られます</u> 」と「 <u>聞けます</u> 」、「 <u>見えます</u> 」と「 <u>聞こえます</u> 」の違い (27課 p.28-30)

4	みんなの日本語 初級 本冊	○		×	
	みんなの日本語 初級 文法解説. タイ語版	○	○	△	・「わかる」は可能の意味がある状態を表す動詞なので、「わかるる」にできない。(27 課 p.14) ・「見る」、「聞く」は意志性があるので、「見られる」、「聞ける」にできるが、「見える」、「聞こえる」は意志性がない。(27 課 p.14)
	みんなの日本語 初級教え方の手引き	○	○	△	・「見える」「聞こえる」と「見られる」「聞ける」の違い (27 課)
5	初級日本語 げんき	○	○	×	
	初級日本語 げんき 教師用指導書			△	・英語では"can understand"と言えるので「わかる」も可能形が作れると思いがちだが、「わかる」には可能形がないことも一言添えるといい。(13 課 p.65)
6	日本語よろしく	○	○	△	・「わかる」には可能の意味が含まれているので、可能形にできない。(5 巻 4 課 p.66) ・「見える」「聞こえる」(5 巻 4 課 p.67)
7	ホップ・ステップ・ジャンプ				
8	日本語あきこと友だち	○	○	×	

※【活用】 ○ = 動詞を可能形にする時の活用の規則に関する説明がある

【助詞】 ○ = 可能形を用いた場合の助詞の変化（を→が）に関する説明がある

【使用条件】 × = 可能表現における主体の有情性や動詞の意志性などに関する説明がない

△ = 可能形にすることができない動詞の例は挙げられているが、規則や条件の説明がない

次に、「自動詞の可能形」の誤用と関係が深い、「自動詞」に関する説明や注意事項を調査した。表4に示す通り、「自動詞・他動詞」が導入される課においては、どの教科書においても自動詞を用いた場合の助詞（が）に関する説明と、結果状態を表す「自動詞+ている」という文法項目が導入されていることがわかった。そのため、当然ながら、その課における主な指導項目は「自動詞+ている」となり、可能表現や可能の意味に関する説明、「自動詞の可能形」に関する注意などがなされない。また、どの教科書にも「自動詞」に意志動詞と無意志動詞の2種類のタイプがあることの説明はなく、この点が唯一8冊の教科書に見られた共通点であった。

表4 各教科書での「自動詞・他動詞」が導入される課における自動詞に関する説明

	教科書	導入される 文法項目	助詞の使用に 関する説明	「自動詞の可能形」 に関する説明
1	日本語初歩	・対応する他動詞	○	×
	日本語初歩 日本語文法解説 タイ語版	・～ている		

2	初級日本語	・対応する他動詞 ・～ている	○	×
	初級日本語れんしゅう			
	初級日本語文法解説 英語版			
3	新日本語の基礎	・～ている	○	×
	新日本語の基礎 分冊 タイ語訳			
	新日本語の基礎 文法解説書 タイ語版			
	新日本語の基礎 教師用指導書			
	新日本語の基礎のくわしい教案と教授法			
4	みんなの日本語 初級本冊	・～ている	○	×
	みんなの日本語 初級文法解説 タイ語版			
	みんなの日本語 初級 教え方の手引き			
5	初級日本語 げんき	・対応する他動詞 ・～ている	○	×
	初級日本語 げんき 教師用指導書			
6	日本語よろしく	・対応する他動詞 ・～ている	○	×
7	ホップ・ステップ・ジャンプ	・対応する他動詞 ・～ている	○	△
8	日本語あきこと友だち			

※ ○＝説明や注意事項がある

×＝説明や注意事項がない

△＝「自動詞の可能形」の事例は挙げられているが、規則や条件の説明が不十分

8冊の教科書の中で、「自動詞の可能形」に関する記載が見られたのは、初級の復習を目的に作成された『ホップ・ステップ・ジャンプ』のみであった。この教科書では「自動詞の可能形」に関する条件について、以下のように説明がある⁹。

自動詞には可能の意味を持つ自動詞がある。その自動詞は可能形にできない。

例えば、聞こえる、見える、分かる

※ ×聞こえられる、×見えられる、×分かれる にしないこと。

例 21 その箱は大きいから、物がたくさん入るでしょう。

※ 「入る」の場合は「入れる」(可能形)があるが、人か生物にしか使えない。例えば、

例 22 ワンラパーさんは一生懸命勉強をしているから、きっと有名な大学に入れるでしょう。

ただし、例 21 のように物に使う場合は「入れる」ではなく、「入る」を使うこと。

『ホップ・ステップ・ジャンプ (一)』4課 p.161

上記のように、「自動詞」と「可能形の使用に関する条件」の説明はあるが、「聞こえる・見える・分かる・入る」の四つの動詞しか取り上げられておらず、規則や条件の説明や可能形にできない他の動詞の例が不十分であることから、学習者は他の自動詞(無意志動詞)は可能形に活用できると理解してしまう可能性があると考えられる。

また、各教科書における「可能表現」と「自動詞」の使用条件の記載を調査した結果、どちらにも「自動詞の可能形」が誤用であるという説明がないことが明らかになった。即ち、学習者は「自動詞の可能形」は誤用であると認識するように指導されていないのである。楠本(2009)が「無標で可能の意味を表せる自動詞文の説明をしている教科書や教師用指導書は非常に少ないと言えよう。したがって、これらの可能表現は、教師が意識的に導入しなければ、学習者は目に触れることも教えられることもなく終わってしまい、それが誤用に繋がることは十分考えられるであろう。」(p.70)と指摘しているのと同様に、本調査からも「自動詞の可能形」に関する条件を、教師が意識的に教える必要があると考える。

5. おわりに

本調査の結果、「自動詞の誤用」の要因として、以下の2点が浮かび上がった。

- ① 多くの教科書において「可能形」が「自動詞・他動詞」の前に導入され、「自動詞・他動詞」が導入される課では、結果の状態を表す「自動詞+ている」の説明に重点が置かれるため、無意志動詞の自動詞は可能形にできないという説明がされていない。
- ② 「可能形」の課で提示されている例文の中には、「主語の省略」や「対比」によりモノを主題として取り上げた文(この荷物は軽いから、一人で運べます／たばこは吸いますが、お酒は飲めません)が見られた。これらの例文では、主語の有情性と動詞の意志性によって、動詞に可能形が使えるかどうかが決まるが、その説明がないため、学習者はモノ主語でも動詞の可能形が使用できるという間違った規則を作ってしまう可能性がある。

したがって、「自動詞の可能形」の誤用を防ぐためには、日本語教育の現場において適切な時期に、日本語の自動詞には可能の意味が含まれていること、および無意志動詞の自動詞を可能形にできないことを、明示的に教える必要があると言えるだろう。

1 本稿では「可能形」と「～できる」を可能表現とする。

2 「国際交流基金：日本語教育国・地域別情報(タイ)」のウェブサイト参照。

3 ปราบ (2544) [プラニー他(2001)] 及び「タイで教える⇔日本で学ぶ：タイでよく使われている教科書・教具・参考書」のウェブサイト参照。

4 2の『初級日本語』、4の『みんなの日本語』、5の『初級日本語げんき』は改訂版が出ているが、タイにおける教育現場の関係者によると、タイでは旧版が使われているため、本調査は旧版を取り扱う。なお、調査項目(自動詞と可能形)に関する旧版と新版を確認したが、違いが見られなかった。

5 「初版年」とは第1巻の初版年を指す。

6 7の『ホップ・ステップ・ジャンプ』は、初級の複雑な文法項目を中心に取上げて作成された初級の復習を目的とした教科書である。この点において、今回調査対象とした他の教科書(主教材/総合教科書)とは異なるが、セーリム(2012)において、この教科書を使用して日本語を学習した経験を持つ学習者が多かったため、今回の調査においてこの教科書を調査対象として採用した。

7 7 の『ホップ・ステップ・ジャンプ』は初級の学習困難点のみを取り上げているため「可能表現」の項目がなく、8 の『あきこと友だち』はタイ語には自動詞と他動詞という対応関係はなく、「自動詞・他動詞」だけを文法項目として取り上げて説明しても混乱をまねく可能性があることから、「自動詞・他動詞」のみを取り上げた項目はない。『あきこと友だち』では、それぞれの動詞が使用される場面で覚えるようシラバスが組まれている。
8 初級の復習を目的とした教科書である『ホップ・ステップ・ジャンプ』は除く。
9 『ホップ・ステップ・ジャンプ』ではタイ語による説明が記載されているため、筆者がタイ語から日本語に訳し要約したものを載せる。

<参考文献>

- 井上和子 (1976) 『変形文法と日本語・下』 大修館書店
- 楠本徹也 (2009) 「無標可能表現に関する一考察」 『東京外国語大学論集』 第 79 号 東京外国語大学 pp.65-85
- セーリム, パニー (2012) 「タイ語を母語とする日本語学習者の「自動詞の可能形」の誤用に関する一考察—行為の結果の状態の表現を中心に—」 『日本語・日本文化研究』 第 22 号 大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻 pp.185-198
- 高見澤孟 (2004) 『新・はじめての日本語教育 1 日本語教育の基礎知識』 アスク
- 張威 (1998) 『結果可能表現の研究—日本語・中国語対照研究の立場から—』 くろしお出版
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 I』 くろしお出版
- 長友文子 (1997a) 「可能形の規則による動詞の分類—日本語教育から見た可能表現の研究(一)—」 『和歌山大学教育学部紀要—人文学科—』 第 47 集 和歌山大学教育学部 pp.1-8
- 長友文子 (1997b) 「可能形における自動詞と他動詞—日本語教育から見た可能表現の研究(二)—」 『和歌山大学教育学部紀要—人文学科—』 第 47 集 和歌山大学教育学部 pp.9-16
- 封小芹 (2005) 「可能の意味を含む有対自動詞の産出的能力の習得—中国語を母語とする学習者を対象にした調査に基づいて—」 『ことばの科学』 第 18 号 名古屋大学言語文化研究会 pp.143-162
- ปราณี จงสุจิตรธรรม, ผกาทิพย์ สกุลครู, สุชาดา สัตยพงศ์ (2544),
“การศึกษาภาษาญี่ปุ่นขั้นพื้นฐานในประเทศไทย” ศูนย์ภาษามูลนิธิญี่ปุ่น กรุงเทพฯ [プラニー・ジョンズジャッリタム、バガーティップ・サグンクル、スチャダー・サッタヤポン (2001)
「タイにおける基礎日本語教育の研究」 国際交流基金バンコク日本文化センター]

<参考 URL>

- 国際交流基金「日本語教育国・地域別情報 (タイ)」 2011 年度
<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/thailand.html>
- タイで教える⇔日本で学ぶ「タイでよく使われている教科書・教具・参考書」 2009 年
<http://d.hatena.ne.jp/thai-nichi-kakehashi/20090624/p1> (最終閲覧日 2013 年 9 月 1 日)